

11月14日 第5日目

今日から政治大学での特別講義。一日の始まりはドミトリー初の朝食から。各部屋に届けられるということで、どんなものがお出ましするのか待ち構えていると、届いたのは小さい小箱とクッキー、そして紅茶。昨日までのバイキングと比べると見劣りするの否めないものの、この後の展開をふまえると、けだし適量であった。

午前中は10時からドミトリー一階の会議室にて、政治大学でのプログラムのコーディネーターの方々より、ドミトリーの使い方と政治大学の概要に関するオリエンテーション。政治大学は台湾大学と並ぶ国立大学の雄で、特に文系が強いということから、日本における一橋大学を彷彿とさせる。

説明に続きその政治大学の附属ドミトリーである宿所の案内。ドミトリーとはいえ、実質ホテルと変わらない設備・清潔さである。ランドリーも各階にあり、洗濯・乾燥ともに一回40円程度。早速洗濯にいそしむ者多数。

寮内の案内が終わると、続いてはキャンパスツアーへ。出がけにタピオカミルクティーをサービスしていただき、それを片手に構内を歩くという心憎い仕掛け。しかもそのミルクティーが朝食の少なさを補って余りある味とボリュームであった。

政治大学の敷地はあまりにも広大過ぎて、山の上のキャンパスとの間にシャトルバスが運行されているとのことであった（片道約4円）。

周辺には大学生向けの食堂が立ち並び、その中にはスターバックス・マクドナルド・セブンイレブン・ファミリーマートに吉野家と、日本でもおなじみのチェーン店が立ち並び、食事探しに苦勞することはなさそうである。

寮に帰り着くと昼食にどっさりとピザが届く。14人にはちょっと多いかという量のピザたちをやっと半分強片付けたかなという頃になって、朝食よりもはるかに多い量のサラダ＋サンドイッチのボックスが一人一個ずつ投入され、我々日本人は本日も台湾風おもてなしの豪快さを思い知らされることになる。

午後には政治大学でソーシャルメディアからVRまで先端的な社会学を専門としているリン先生による初めての講義＋生徒のプレゼンを迎えた。最初に2年阿部・1年内山班が、コミュニティの再構築におけるSNSと郷土芸能の可能性について、続いて2年工藤・1年大平班が、インバウンド対策におけるスポーツとSNSの活用可能性についてプレゼンを行った。両班ともに、日本での練習ではたどたどしかった10分に及ぶ英語原稿によるプレゼンを、それなりに流暢にこなせるようになっていた。見えないところで練習を積み重ねてきた証であろう。

その後はリン先生による講義に移る。台湾におけるSNSの実態を詳細かつ多面的に講義していただいた。日本でも現在の政治の在り方が「劇場型」などと揶揄されているが、台湾では劇を演じる場がすでにSNS上に移行しつつあるようだ。また台湾において全体の約1割に及ぶ人々のSNSを利用する動機が、「周りを取り残されないようにするため」という、潜在的な強制性から来ているという指摘については、日本（の高校生）にもそのまま当てはまるのではないかと思われた。

この講義の間、絶え間なく注ぐ英語のシャワーを浴びつけ、終了後はみな脳が疲労困憊していた。しかしながら、この困難さを味わうことこそが海外研修の醍醐味の一つである。生徒たちにはひるまずにこのシャワーに飛び込んでいってほしい。

ドミトリー室内の様子



タピオカ片手にキャンパスツアー



阿部・内山班によるプレゼン



大変刺激的な英語のシャワーでした

